

日本原子力学会 核燃料部会
平成 30 年度第四回運営小委員会議事録

日時 : 平成 31 年 3 月 1 日 (金) 13:30~17:00

場所 : 日本原子力学会事務所 会議室

出席者 : 寺井部会長、宇埜副部会長、草ヶ谷副部会長、天谷委員、大堀様 (大矢委員代理)、尾形委員、川西委員、黒崎委員、松本委員、篠原委員、島田委員、高木委員、木下様 (谷口委員代理)、平井委員、堀内委員、柳沢委員、山内委員、渡部委員、原田 (記)

説明者 : 鈴木様 (JANSI)、逢坂様 (JAEA)

議事

1. 軽水炉燃料等の安全高度化ロードマップ検討 WG の継続について (資料 8)

宇埜副部会長から、前回の運営小委員会で議論となった「軽水炉燃料等の安全高度化ロードマップ検討 WG」活動継続趣意書の扱いに関して、報告書が 12 月に核燃料部会 HP に掲載されたことから、WG の現在の状況と今後について、WG 幹事である JANSI 鈴木様より紹介して頂くことにした。

今後の見通しについて、METI の「自主的安全性向上・技術・人材 WG」では平成 30 年度はロードマップの見直しはしない見通しで、原子力学会の「軽水炉安全技術・人材 RM 高度活用研究専門委員会」では 3 月 26 日に委員会を開催して平成 30 年度を取りまとめる予定であり、WG では材料は用意できているので、いつでも提供できる状況である。

今後の体制に関する WG の考えは、METI 及び学会のローリング活動は継続する方向であり、WG においてもローリング活動を継続できる体制を維持する、具体的には、必要な時期に速やかに検討できるように、体制を維持して事務的・時間的な負荷を少なくする。

- ・ 委嘱手続から期間を決めておかないといけませんが、次回は？
→ 今のところは決めていない。親委員会から指示が下りたら、期間を決めて委嘱手続等を行う。
- ・ WG について核燃料部会の活動と位置付けると、親委員会から指示を待つのではなく、我々が主体的に進めるのでは？
→ その通り。ただ、報告書を作成したばかりであり、マンパワーの問題もある。

本日のコメントを踏まえて、WG の活動継続を進めて頂くこととした。

2. 前回運営小委員会議事録等の確認 (資料 1)

原田庶務幹事から、前回 (平成 30 年度第三回) 運営小委員会議事録を紹介した。事前にメールにて確認済みである旨紹介し了承された。

3. 2019 春の年会 企画セッションについて（資料 2）

川西委員から、資料 2 の「2019 春の年会 企画セッション」の内容について説明があった。タイトルは「燃料デブリと核分裂生成物の特性比較」であり、3 月 21 日に開催する予定で、「シビアアクシデント時の核分裂生成物挙動」研究専門委員会、核燃料部会、水化学部会の合同セッションである。

- ・タイトル「特性比較」とあるが、何と何の比較なのか。
 - 企画セッションの×切が早く、分かり難い表現であるが、講演内容 3 では、「デブリ及び FP 両者の分布と変化を整理して比較する」と説明する予定。
- ・講演のみで討論はないのか。
 - 講演内容 4 で、討論を含めて実施する予定。
- ・「燃料デブリ」の定義がないが、「FP に対するデブリ」は正しいのか、取出さないといけないガラクタがデブリであり、燃料なのか FP 付着物かは特定できないので、燃料分野の人間を含め「デブリ」の使い方に留意が必要である。

4. 「シビアアクシデント時の核分裂生成物挙動」研究専門委員会の状況について（資料 5）

企画セッションの議題に関連して、当該研究専門委員会の幹事である JAEA 逢坂様より資料 5 の「研究専門委員会の状況」について説明があった。

本研究専門部会は、水化学部会が主体であるが、核燃料部会を含め幅広く多くの部会の方に参加して頂いている。活動は 2017 年度から開始して 2018 年度末までであるが、先に実施した運営小委員会・メール審議（2018. 11. 27-12. 03）において 2 年間延長することが審議により承認されたが、この場でも改めて活動期間延長が確認された。

- ・運営小委員会の審議では、核燃料部会としての位置付けが議論となって、コミットを受けるのであれば、実施内容を報告してもらおうということで、本日の報告になったということか。
 - その通り。

5. 部会賞関係（奨励賞、講演賞）（資料 3）

川西委員から、資料 3 により部会賞関係の説明を行った。

(1) 【報告】 2018 年度奨励賞の選考結果について

JAEA の成川氏から応募があり、部会賞選考小委員会でメール審議し、奨励賞の受賞候補として選考した。その後、当該選考結果を運営小委員会でメール審議し、成川氏を核燃料部会賞（奨励賞）に決定した。3 月 22 日の部会全体会議で、部会長から成川氏に賞状と楯を授与する。

(2) 【協議】 2019 年春の年会での講演賞エントリー状況について

昨日の×切時点において、9 名のエントリーがあった。ただし、1 名が講演

時点で36歳と8日となっており、「原則、35歳以下」という「核燃料部会 部会賞実施要領」での規定から外れることから、エントリー対象者とするか協議したい。

- ・「原則」は何か予期せぬことが起きたための文言であって、ここを曲げると拡大解釈される可能性がある。
- ・同じ学年という観点からも、該当しない。例えば、4月1日時点で制約すれば、講演実施日が未定でも問題はない。
- ・奨励賞はそのように実施しており、講演賞は発表だからという点で講演実施日にしている。
- ・今回の場合はルールどおりとし、今後は、ルールの見直しが必要。

以上より、1名についてはルールによりエントリー者に該当しないとし、ルール見直しは企画小委員会で議論することとした。

(3) 【協議】講演賞の評価票について

企画小委員会で議論した講演賞の選考要領について、以下の事項を協議したい。

① 講演時間の中間点を設定する。

- ・評価基準の具体的な内容を講演者に事前に明示すべき。また、受賞率の観点もあるので、エントリー者数も明示する。
 - 新たな提案となるため、次の秋の大会に向け企画小委員会で議論する。
- ・特に、講演スケジュールが切迫している場合などは、講演を早く終わらせるというスキルも必要になることもある。講演時間が短いということは、それだけ要領よく説明できた、とも解釈できる。また、短くなった場合の影響は、講演内容の評価でカバーされる。すなわち、講演時間が短いことをマイナス評価すべきではない。
- ・上記意見とも合わせ、講演時間「超過」と厳密に明記すべきでは。
 - マイナス時間のマイナス点は削除する。なお、評価者が講演時間を測るので、厳密にせず評価者に任せることとしたい。

② 評価者の評点の扱いについて、「素点」と「平均化」の双方を勘案して受賞者を選考するが、評価者が多い場合は上下カットした評点も参考にする。

- ・十分な評価者を確保できればよく、バラツキはやむを得ない。基本は素点。
 - 上下カットを用いながら総合的に勘案することでよいとする。春の年会の結果を見て、次年度の企画小委員会で議論する。

③ 受賞率の基準に対し、圧倒的に優秀な評価となった場合は、例外的に選考する。

- ・受賞候補の方とそん色ないということであれば、総合的な勘案で読んでいただくような余地も残しておいてよい。

①から③に関し、以上のコメントを受け、春の年会で講演賞を審査して頂

き、その反省のもとに秋の大会に臨んで頂きたい。

(4) 【協議】講演賞の副賞について

奨励賞については、記念品として楯を授与しているのに対し、講演賞でも記念品(メダル)を授与すべきとの意見が企画小委員会であり、協議したい。

- ・ 記念品を授与するのは問題ない。時期は秋の大会からとなるが、詳細は企画小委員会で議論して頂く。
- ・ 学会賞実施要領における「本賞と副賞」とは、何か？ 記念品は副賞とは読めない。

→ 昔、副賞は、学会賞に核燃料部会賞とかを特別に付与したことの名残ではないのではないかと。そこは、調べて頂いて、賞状と記念品の授与で問題ないので、要領を見直すことでお願いしたい。

6. 平成31年度夏期セミナー準備状況(資料4)

天谷委員から、次年度の夏期セミナーの準備状況について紹介があった。

- ・ 講演賞の受賞者の発表が30分は長いと思われるので、見直すべき。
- ・ ロードマップについては、阿部先生から了解を得ており、今のところは日程はOK。

7. 企画小委員会の概要について(資料6)

宇笠副部長から、1月11日に開催された企画小委員会の議事録の紹介があった。なお、議事録の議題について、運営小委員会の議論も紹介することになってしまうので、今後、議題として最初に持ってくることにした。

8. 日本原子力学会誌「ATOMOΣ」連載講座記事について(資料7)

宇笠副部長から、学会事務局から学会誌の連載講座の執筆依頼があり、過去の実績を含めて紹介があった。現在、連載講座になるまとまったものがないため、部長、副部長で相談し、今回も見送ることにした。

- ・ 連載とするのは難しい。10回となると思いつかない。
- ・ 引き続き、企画小委員会で検討してもらう。

9. 旅費・謝金・参加費内規の見直しについて(資料9)

草ヶ谷副部長から、前回の運営小委員会で宿題となった「過去に海外会議への学生参加について旅費補助を行ったことがあるが、学会の「旅費・謝金規約」では、「海外出張に関し、学会の規約では別途定める」としており、この対応を含めて次回運営小委員会までに検討する」について、改定案の紹介があった。

旅費支給の対象者として、国際会議等の出席者(学生も含む)を入れるとともに、部会関係の会議等への出席者を記載した。これは、他部会での予算実績から、遠方から委員会への参加者に旅費を支給している例があることからであ

り、従来からの慣例で必要ない場合もあるが、そのような余地を残す観点で案として記載した。また、旅費以外に学会の規約に基づき国際会議等への参加費も支給できるようにした。

- ・ 国内外の依頼講演者について、海外から日本に来られる旅費は支払われるのか？
 - 学会の規約は、日本から海外が対象であり規定されていない。海外から日本に来た後の国内旅費が対象となると思われる。(委員会後の情報：学会事務局に確認した結果、海外講師の旅費は、運用として、日本国内分しか支払っていないとのこと。)
- ・ 学会の規約で旅費は実費としているが、部会の要領との相違は？
 - 学会の規約が上限という位置付けであり、部会の要領に分かるように記載する。部会としての支給額は、明記せず予算枠の中でできるようにする。
- ・ いつまでに制定しないとイケないのか？
 - 部会の全体会議での審議が必要となるので、これを逃すと1年後となる。本日のコメントを反映し、3月11日までに運営小委員会のメール審議を行い、3月22日の全体会議で審議することにする。

10. フェロー候補者の推薦について (資料10)

草ヶ谷副部長から、原子力規制委員長の更田氏を核燃料部会からフェローに推薦し、学会での審議の結果、フェローに認定されたことが報告された。部長宛にお礼のメールを頂いた。春の年会での認定式には欠席されるとのこと。また、宇埜先生の推薦については、次年度以降になる。

- ・ フェロー候補者の推薦はいきなり来るので、候補者をリストアップしておく必要がある。
 - 企画小委員会で、対応方法を検討して頂く。

11. 平成31年度核燃料部会次期体制 及び業務分担について (資料11)

原田庶務幹事から、資料11-1により次年度の体制、資料11-2で四国電力の委員交替(大矢委員→大堀委員)に係る部会全体へのメール審議を紹介した。

- ・ 寺井先生は1年間(退職まで)委員として残っていただける。
- ・ 宇埜先生の副部長の後任については、JAEAにお願いしているところ。
 - 3月22日の全体会議の資料には副部長の候補者を記載しないとイケないので、3月19日までにお願いしたい。
- ・ 運営小委員会としての提案になるので、候補者を決めて頂き、3月11日までにメール審議することとした。
- ・ 選考小委員会の委員長は副部長になってもらっているので、草ヶ谷副部長にお願いしたい。
 - 了解

- ・業務分担について、一人の人に負荷が集中しており、見直しをしていきたい。
- 2019年度は、資料 11-1 のとおりとするが、2020年度については、企画小委員会で議論して見直していくことにする。

1 2. 平成 30 年度予算の支出予想と平成 31 年度予算案について（資料 12）

原田庶務幹事から、支出予想と次年度予算について、運営小委員会のメール審議を得て、学会事務局に提出したデータをもとに作成した資料 12 を紹介した。

1 3. 平成 30 年度 核燃料部会全体会議の準備について（資料 13）

原田庶務幹事から、3月22日に行う核燃料部会全体会議の案を紹介した。

- ・トリウム燃料の利用に関する WG 及びジルコニウムに関する WG は 2018 年度に活動がないため、記載を削除する。
- ・国際活動については、副部会長もしくは指名したものとなっており、別途、草ヶ谷副部会長から回答を頂く。
- ・評議員について、代議員に修正し、登録されている宇笠部会長候補と草ヶ谷副部会長を記載する。
- ・全体会議の議事次第を庶務幹事で作成し、スムーズな議事進行をお願いしたい。

1 4. 核燃料部会報 54-1、54-2 について（資料 14）[山内委員]

山内委員から、部会報の進捗状況の紹介と執筆のお願いがあった。部会報 54-1 については、フォントの修正等を行って早々に発行する予定。部会報 54-2 は夏期セミナーの紹介があるので、5 月末頃の発行を目標に考えており、執筆については以下に依頼した。

- ・巻頭言：寺井先生
- ・企画セッション：JAEA 逢坂様に依頼
- ・特別講演：部会賞の奨励賞、講演賞の 3 名に依頼
- ・国際会議：IAEA TWGFTP2019 年会合を尾形委員に依頼、ICON（JAEA 逢坂様）は次の部会報に投稿してもらう
- ・国際交流ニュース：MNF からハルデンに派遣している方に依頼
- ・夏期セミナー：JAEA 天谷委員に依頼
- ・会員近況：寺井部会長名で更田氏にフェロー受賞に関して執筆を依頼

1 5. その他

(1) 学会ホームページの更新

部会長挨拶が湊前部会長のままであり、寺井先生には部会長退任の挨拶と

写真、宇埜先生には新部会長の挨拶と写真を庶務幹事に送付してもらうことにした。また、部会賞については、奨励賞と講演賞を分けて紹介するようにホームページ案を次回運営小委員会で紹介する。

(2) 次回運営小委員会の開催日

宇埜先生の都合に合わせ、5月14日に開催することとした。学会事務局に連絡し、会議室は確保済み。その前に企画小委員会の開催をお願いしたい。

(3) IAEAのTWGFTP2019年会合について

尾形委員から4月9日から11日に開催されるTWGFTP2019年会合について、昨年度に日本の核燃料関係の研究開発を紹介することで皆さんからネタをもらって準備していたが、時間がなく今年度に延期された。まだネタを頂いていない先生分を集約し、3月中に皆さんにメールするので、コメントをお願いしたい。

(4) 運営小委員会メンバーについて

山脇先生が運営小委員会に残っている経緯が分からないが、寺井先生から山脇先生に確認して頂くことにした。なお、東北大学の佐藤先生もあと1年で退官される予定。

(5) 部会員への情報メール（委員会後の情報として記載）

学会事務局から部会員への情報メールに使用している「さくらのメールボックス」の契約更新手続きの依頼をするように連絡があり、運営小委員会のメール審議で承認を取り、事務局に依頼した（少額のため申請書は不要）。毎年この時期に契約更新するため、毎年第4回運営小委員会で承認して事務局に依頼することとする。

以上